第４期中期目標・中期計画の進捗状況に関する自己点検・評価について

令和7年8月4日
国立大学法人室蘭工業大学
評価分析室
法人評価・自己点検評価部門

令和６年度における中期目標・中期計画の進捗状況を自己点検し、以下の４段階により評価した。

| | |
|---|---|
| Ⅳ | 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある |
| Ⅲ | 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる |
| Ⅱ | 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる |
| Ⅰ | 中期目標の達成のためには遅れている |

＜次頁以降の見方＞

1. 実績・進捗状況欄について

当該年度に第４期中期目標・中期計画の達成に向けて取り組んだ実績や進捗状況について、（ア）から始まる五十音記号を用いて個別に記載している。

2. 評価指標欄について

当年度欄について網掛けにした上で、以下により記載している。

定量的な評価指標：目標値を記載し、経年の実績値を記載している。

定性的な評価指標：目標値を斜線とし、当年度欄に上記 1 により記載した実績や進捗状況のうち該当するものの記号を記載している。

3. 自己評価欄について

上記 1 の実績・進捗状況を踏まえ、中期目標・中期計画の進捗状況を 4 段階により自己評価した結果を記載している。

**中期目標**

【１】人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①

**中期計画**

【１－１】本学が第３期中期目標期間において策定した「北海道 MONO づくりビジョン 2060」を基礎とし、地域創生への貢献、イノベーションの創出、エコシステムを利用した教育の実現のために、本学が中核となる大学・地方自治体・企業からなる地域創生総合化エコシステムを構築・活用し、社会からの投資を呼び込む。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）本学札幌サテライトを「エア・ウォーターの森」に開設した。札幌サテライトでは、北海道の潜在力を活かした社会課題解決のための交流会やイベント、新ビジネスへの支援など様々な取り組みを行う予定である。 | Ⅳ |

評価指標【１－１-①】
連携対象企業・自治体からの投資実績（共同研究、受託研究、学術指導）を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させる

（単位：千円）

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 222,047 | 193,586 | 213,680 | | | | 135,061 |

**中期計画**

【１－２】地域の課題解決のために、データサイエンス等の情報技術やものづくり技術を基盤として、魅力的な地域企業の増加に向けた地方自治体・産業界との連携を通して、地域の産業振興に寄与できる人材を輩出する取組を実施する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）令和６年８月、本学の数理・データサイエンス教育の取組が文部科学省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定された。 | Ⅲ |

評価指標【１－２-①】
数理・データサイエンスプログラム関連科目を整備し、応用基礎レベル※1 相当まで充実させる

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

評価指標【１－２-②】
地域志向人材育成プログラム修了者数を第３期中期目標期間終了時比 1.5 倍に増加させる

（単位：人）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 475 | 505 | 508 | | | | 153 |

※1　「応用基礎レベル」：文部科学省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」における応用基礎レベル（数理・データサイエンス・AI の知識を、様々な専門分野へ応用・活用することができる能力）を指している。

**中期目標**

【２】学生の能力が社会でどのように評価されているのか、調査、分析、検証をした上で、教育課程、入学者選抜の改善に繋げる。特に入学者選抜に関しては、学生に求める意欲・能力を明確にした上で、高等学校等で育成した能力を多面的・総合的に評価する。⑤

**中期計画**

【２－１】学士課程における学修成果評価方針（アセスメントポリシー）を点検・見直すとともに、そのアセスメントポリシーに基づき、学士課程における学修成果を社会からの評価結果も含め多面的に評価し、評価結果が学生および社会から見えるように可視化する。また、学士課程教育の改善のため、得られた評価結果を大学のファカルティ・ディベロップメント（FD）活動へ反映させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）アセスメントプランに基づき授業評価アンケートや卒業予定者アンケート等のデータのとりまとめを行った。<br>（イ）在学生アンケートの完成が２月上旬を予定していたことから、評価方法等の点検は、令和７年度に行うこととした。<br>（ウ）在学生アンケートの完成が２月上旬を予定していたことから、令和７年度に点検を行い、大学教育特別委員会で審議することとした。 | Ⅲ |

評価指標【２－１－①】
学内及び社会への各種アンケート結果において社会からの肯定的な結果が得られていること

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

評価指標【２－１－②】
カリキュラムポリシーとディプロマポリシーに対するアセスメントポリシーの整備及び継続的な検証

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （イ） | | | | |

評価指標【２－１－③】
学修成果評価結果の可視化及びその FD 活動への継続的な反映

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ウ） | | | | |

**中期計画**

【２－２】継続的にアドミッションポリシー（AP）を検証し、必要に応じて見直す。特に、総合型選抜を中心に選抜方法を分析し、その結果を、選抜方法の改善に反映させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）令和６年度入学者選抜の各試験結果や入学者情報を取りまとめ、令和６年４月開催の入学試験委員会において報告した。また、令和６年 11 月に実施した新入生アンケートにおいて、「本学のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）の認知度と活用度」を調査した結果、全回答者 267 名中 80.9%の学生が認知しており、そのうち、39.3%の学生が「受験を決めるうえで参考にした」との回答を得た。こうしたアンケート結果等を踏まえ、アドミッションポリシーに高等学校段階までの学習で身につけてほしいことについて追加する一部更新案を策定した。<br>（イ）総合型選抜について、令和７年度入試の出願要件を検討し、高等学校の学習指導要領に合わせた履修要件の見直しを行い、本学 HP 上に公表した。また、令和７年度入試から創設した女子枠を円滑に実施するため、これまでの試験実施方法等を見直すとともに、学科試験担当教員に対して変更点を周知するための説明会を開催した。 | Ⅲ |

評価指標【２－２－①】
アセスメントポリシーに基づいた AP の整備及びその継続的な検証

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

評価指標【２－２－②】
総合型選抜の継続的な分析及び分析に基づく選抜・評価方法の改善

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （イ） | | | | |

## 中期目標

【３】特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。（学士課程）⑥

## 中期計画

【３－１】多様な選抜方法で入学してきた学生に対して、学修の範囲を自身の専攻分野だけではなく関連の深い隣接領域へ拡げる際に重要となる低学年次の理数基礎科目について、学生の能力に応じて、その理解を補うカスタムメイド型学力向上支援システムを導入・運用する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）「物理」のリメディアル教育として学習管理システム上に物理スタディサポートコースを開設し、週に一度、本学シニアプロフェッサーが担当して実施した。また、リメディアル教育の検証を行い、物理スタディサポート室を利用した者の定期試験平均点から効果があったことを確認した。<br>（イ）「数学」のリメディアル教育について、数学補習教育 WG で詳細設計を検討し、令和７年度からスタディサポート室を開設することを決定した。 | Ⅲ |

評価指標【３－１－①】
理数基礎科目の理解を補う教育を行うための制度としてのカスタムメイド型学力向上支援システムの導入

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア）<br>（イ） | | | | |

評価指標【３－１－②】
システム利用学生の理数基礎科目の単位取得率を、第３期中期目標期間終了時と比べ増加傾向にする

（単位：%）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 87 | 89 | | | | 79 以上 |

評価指標【３－１－③】
システム利用学生の学習時間を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させる

（単位：時間/週）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 17.9 | 17.2 | | | | 17.4 |

## 中期計画

【３－２】教養教育を含む理工学部共通教育、基礎的、実践的な情報教育、視野を広げるための幅広な学科共通教育、課題探求能力を身につけるためのコース専門教育それぞれにおける科目群について教育の状況を調査分析し、教育効果を検証するために自己評価を行うとともに外部評価を受ける。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）キャンパススクエアで成績データを蓄積するほか、公表された各種アンケートの集計結果を蓄積した。<br>（イ）学部 2 年前期終了時となっていたコース分属について、教育システム委員会の中にコース分属早期化詳細設計 WG を立ち上げ、コース分属を 2 年前期開始時に変更することに伴うカリキュラムの見直しを行った。 | Ⅲ |

（ウ）物理物質システムコースの JABEE 中間審査を受審したほか、電気電子工学コース及び化学生物システムコースの JABEE 継続審査を受審した。

評価指標【３－２-①】
各種アンケートを活用し、総合的な評価結果が肯定的な傾向であること

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア）<br>（イ） | | | | |

評価指標【３－２-②】自己評価・外部評価の計画的な実施

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ウ） | | | | |

**中期計画**

【３－３】学部の早期から特定の研究分野に興味を持たせ、研究活動に着手できる「学士修士一貫教育プログラム」の取組を基盤とし、大学院進学希望学生に対して、大学院でスムーズに研究活動ができるように、学部の早期から研究マインドを育成する取組を実施する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）広報室と連携し、大学院受験者向けの専用の HP を作成し、4 月に公開したほか、高校訪問や出前講義においても大学院進学にフォーカスした広報活動を実施した。<br>（イ）大学院進学を勧める説明会について、学年毎に実施し、延べ 274 名の学生が参加した。また、一部の説明会では、博士前期課程学生を招き「院生パネル・トークショー」を実施して参加学生に向けて大学院生の生の声を届け、実施後には参加学生向けのアンケート調査を行った。 | Ⅲ |

評価指標【３－３-①】
学部の早期から研究マインドが育成される取組の実施と継続的な検証

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア）<br>（イ） | | | | |

評価指標【３－３-②】
大学院博士前期課程進学者を第３期中期目標期間終了時までと比べて増加させる

（単位：人）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 264 | 255 | 233 | | | | 222 |

**中期目標**

【４】研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。（修士課程）⑦

**中期計画**

【４－１】理工学部改組との連続性を明確にし、大学院博士前期課程各専攻のコースを再編する。その際、大学院博士前期課程の教育課程を、研究能力の根底を支える系統的なコースワーク科目と具体的なテーマを設定した演習系科目で構成する。また、研究能力が、大学院博士前期課程の学生個人にどれだけ備わったかを可視化するために、新たに研究能力ポートフォリオ（仮称）を整備し、運用する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）コース再編後のカリキュラムマップについて、令和 7 年度大学院履修要項に学部科目 | Ⅲ |

と MC 科目の分野対応表として記載し公表した

評価指標【４－１-①】
令和５年度までに大学院博士前期課程のコースを再編し、その教育課程表、コース専門科目の系統図及び科目ナンバリング表を作成・公開する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 整備済 | （ア） | | | | |

評価指標【４－１-②】
令和６年度までに大学院博士前期課程学生の研究能力ポートフォリオ（仮称）を整備する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 整備済 | | | | | |

評価指標【４－１-③】
研究能力ポートフォリオ（仮称）への研究活動登録率を上昇させる

（単位：％）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| － | － | 100 | | | | |

**中期目標**

【５】深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。（博士課程）⑧

**中期計画**

【５－１】「イノベーション博士人材」育成のために、大学院博士後期課程の学生が在学中から産業界を意識しながら研究活動を実施することができるように、大学院博士後期課程カリキュラムの実施方法を改善する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）博士後期課程学生と企業との交流事業「ドクコン」を８月に開催し、学生 35 名（うち９名が MC 学生、６名が BC 学生）が参加した。昨年度からの変更点として、参加企業とのフリートークをブース形式にした。<br>（イ）参加企業によるアンケートでは、参加企業 7 社全てがドクコンへの参加が有益であると回答した。また、参加学生へのアンケートでは、回答者 17 名のうち 14 名がドクコンに参加してよかったと回答した。<br><br>評価指標【５－１-①】<br>国内企業、国立研究開発法人、海外研究機関等における長期インターンシップや産業界との交流事業を実施し、その事後アンケート等において、対象の大学院博士後期課程学生に対する産業界等からの肯定的な評価結果が得られること | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア）<br>（イ） | | | | |

**中期計画**

【５－２】新たに令和５年度までに、世界トップレベルの教育実践を目的としたコンピュータ科学人材育成センター（仮称）を設立し、コンピュータ科学分野で高い研究開発能力を有し、産業界とアカデミアの双方で活躍できる能力を培うための取組を推進する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|

（ア）令和７年２月に国際ワークショップを開催し、アメリカ・カナダ・日本などから世界トップレベルの研究者を招聘した。また、同年３月に、対面・オンラインの国際ワークショップを開催し、オーストラリア・中国・シンガポール・台湾などから研究者が参加した。

評価指標【５－２-①】
令和５年度までのコンピュータ科学人材育成センター（仮称）設立

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 整備済 | | | | | |

評価指標【５－２-②】
海外や産業界等からの研究者招聘や国際ワークショップの開催を継続的に実施する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

評価指標【５－２-③】
センター所属教員の指導学生一人当たりの質の高い発表論文※2 数を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させるとともに、センター所属教員の TOP10%論文率が 10%以上であること
（単位：報/人（上段）、％（下段））

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2.00 | 1.60 | | | | 1.82 |
| | 66.7 | 78.5 | | | | 10 |

※2 「質の高い発表論文」：Elsevier 社が提供する文献データベース Scopus における Q1、Q2 レベルの論文を指している。

Ⅲ

## 中期目標

【６】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。⑫

## 中期計画

【６－１】異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成するために、海外協定校等と協働した教育プログラムの展開など学生の海外派遣を充実させる。優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化のために、海外在住 OB を活用した海外同窓会体制を新たに整備する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）令和 5 年度に構築したマレーシアの同窓グループに加え、中国及びインドネシアに拠点を整備した。<br><br>評価指標【６－１-①】<br>日本人学生派遣数を第３期中期目標期間終了時比 1.2 倍とする<br>（単位：人）<br>令和４年度：16／令和５年度：57／令和６年度：75／令和７年度：／令和８年度：／令和９年度：／目標値：61<br><br>評価指標【６－１-②】<br>海外同窓会体制として２拠点を整備する<br>令和４年度：0／令和５年度：1／令和６年度：3／令和７年度：／令和８年度：／令和９年度：／目標値：2 | Ⅲ |

**中期目標**

【７】様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。⑬

**中期計画**

【７－１】多様な学生を受け入れて学生に自身の視野や思考を広げる教育環境を提供するため、女子学生や社会人学生、留学生、障害者を受け入れる環境および交流させる環境を整備する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 令和６年 10 月中旬から礼拝室を稼働した。また、利用登録者に対してアンケートを実施し、要望があった物品を令和７年度に整備する予定である。<br>(イ) 学生向けのキャリア形成のためのランチタイムセミナー及び教職員のためのダイバーシティセミナーを実施した。 | Ⅲ |

評価指標【７－１－①】
学生意向の把握と学生意向を踏まえた計画的な環境の整備

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | (ア) | | | | |

評価指標【７－１－②】
様々なバックグラウンドを有する人材との交流を促す講演会等を１回/年以上開催する

(単位：回)

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 2 | 2 | | | | 年１以上 |

**中期計画**

【７－２】性別や国籍、年齢、障害の有無等が異なる多様な学生を含め、全ての学生が勉学に専念できる環境を整えるために、大学生活支援、学習支援、就職活動支援等を Web の活用により可視化（学生支援 Web マップ）し、様々な支援の利便性を向上させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 学生からの進路相談の申込方法を E メールから Microsoft Forms に変更した。<br>(イ) Web マップに関する学生アンケートを実施した結果、周知が不十分であること及びスマートフォン対応されていないことによる使いづらさが明らかとなった。<br>(ウ) アンケート結果を踏まえ、スマートフォン表示に対応した Web マップに改善した。 | Ⅲ |

評価指標【７－２－①】
大学生活支援、学習支援、就職活動支援等の Web マップを令和６年度までに実装する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 整備済 | | | | | |

評価指標【７－２－②】
Web マップに関する各種アンケートの実施及びアンケート結果に基づく Web マップの継続的な改善

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| － | － | (イ)<br>(ウ) | | | | |

**中期目標**

【８】真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指した基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑭

**中期計画**

【８－１】従来型の学問分野を基礎とする教員研究組織ユニットについて、研究計画と構成員の研究業績の評価によって各ユニットの業績等を明らかにし、その評価結果を次年度に配分する研究費に反映させ、各ユニットの基盤研究を充実させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 研究ユニットに対して令和６年６月にヒアリングを実施し、同年８月に 47,244 千円を予算配分した。<br>(イ) 令和 6 年 5 月～6 月にヒアリングを実施し、令和 5 年度継続課題として、4 件に合計 9,273 千円、令和６年度新規課題として、5 件に合計 20,587 千円予算配分した。 | Ⅲ |

評価指標【８－１-①】
教員研究組織の評価と評価結果に基づく研究費の配分を継続的に実施する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | (ア)<br>(イ) | | | | |

評価指標【８－１-②】
教員一人当たり査読付き論文数の増加傾向

（単位：報/人）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2.00 | 2.13 | 2.14 | | | | 1.84 |

**中期計画**

【８－２】基礎研究と個々の研究者の内在的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化するために、教員の国際的な活動を支援する制度を充実させるなどして、国際共同研究を強化する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 令和６年９月に国際共同研究支援制度の公募を行った。若手研究者国際会議発表支援 1 件を採択し 100 千円を配分、プレ国際共同研究支援 2 件を採択し、合計 1,000 千円を配分した。 | Ⅲ |

評価指標【８－２-①】
国際共著論文数の増加傾向

（単位：報/人）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0.57 | 0.68 | 0.70 | | | | 0.51 |

評価指標【８－２-②】
国際共著論文の FWCI(Field Weighted Citation Impact)値 1.0 以上を維持する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.98 | 1.52 | 1.62 | | | | 1.0 以上 |

**中期目標**

【９】地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、研究により得られた科学的理論や基礎的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑮

**中期計画**

【９－１】「北海道 MONO づくりビジョン 2060」で掲げた①「産業」の価値、②「地域」・「生活」の価値等を向上させる持続可能で豊かな社会を実現するための科学技術開発を推進するクリエイティブコラボレーションセンターを充実させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) クリエイティブコラボレーションセンターのラボに対して、令和 5 年度からの継続課題として、2 件に合計 5,836 千円、令和 6 年度新規課題として、2 件に合計 9,500 千円予算配分した。令和 7 年度新規課題の学内公募については、新ラボ決定後に新ラボ枠と併せて公募することとした。<br><br>評価指標【９－１-①】<br>クリエイティブコラボレーションセンターの教員一人あたりの査読付き論文数と外部資金獲得額に基づく総合指標値※3（本学提案）の増加傾向 | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 25.5 | 27.7 | 30.8 | | | | 21.7 超 |

※3 「総合指標値」：本学のイノベーションステージを技術成熟度レベル２「Research to Prove Feasibility」からレベル４「Technology Development」と想定し、その達成度は総合的な研究活動（査読付き論文数、外部資金獲得額（受託・共同研究費等））を対象として評価することとした。総合指標は、本学の定量的総合評価による教員評価システムの実績を活かし、前述の研究活動毎に重み係数を定めている。

**中期目標**

【10】国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。⑱

**中期計画**

【10-１】日本の宇宙・航空機の学術研究コミュニティの中核として機能し、高度な宇宙・航空機人材の育成を推進することにより、基盤技術の研究開発（超音速有翼機研究）の継続に加え、日本の大学で本学のみが有する白老実験施設（Linear Hyper―G 環境実験施設、航空宇宙機エンジン実験施設、飛行試験設備）を共同利用した日本国内大学や産業界との受託・共同研究を推進する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 白老実験施設において Letara 株式会社、早稲田大学、JAXA 等との共同研究を行った。<br><br>評価指標【10-１-①】<br>航空宇宙機システム研究センターの日本国内大学、企業との受託・共同研究数を年間 1.75 件/人以上とする<br>（単位：件/人） | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 11.00 | 10.83 | 11.00 | | | | 1.75 |

**中期計画**

【10-２】第３期中期目標期間において、国際拠点化を推進した希土類材料研究センターの実績を地域への貢献に活かすために、世界的な希土類の共同研究体制を強化する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 環境省「既存のインフラを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業」について、令和５年度に引き続き、室蘭ガスや室蘭市など産官を共同事業者として推進している。風力発電からの電力を使用した水電解による水素製造、水素吸蔵合金に | Ⅲ |

よる水素配送、様々な水素利活用形態の需要家のグリーン水素サプライチェーンの配送実証データを取得し、低コスト水素の検討を行い、燃料電池、ボイラ、ロードヒーティングといった利用施設ごとに、通常使用する石油系燃料の種類や消費量と円筒型 MH タンク１基容量で実現可能な稼働量を比較し、水素利用プロセスの効率化を行った。

評価指標【10-２-①】
希土類材料研究センターの国際共著論文比率及び教員一人あたりの論文数を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させる

（単位：%（上段）、報/人（下段））

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 40.9 | 41.5 | 35.6 | | | | 38.3 |
| 1.83 | 1.71 | 1.64 | | | | 1.66 |

評価指標【10-２-②】
学生海外派遣数を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させる

（単位：人）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 2 | 5 | | | | 17 |

**中期目標**

【11】内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靭なガバナンス体制を構築する。㉑

**中期計画**

【11-１】本学のガバナンス体制をさらに強化するために、教職員のコンプライアンスに対する意識を向上させる研修等を継続的に実施する。また、ガバナンスコードへの適合状況等の確認及び監査等を実施し、実施結果等を本学の機能強化に繋げることで、法令等に基づく業務の適正な運営を確保する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 令和６年 11 月に、本学 HP に『コンプライアンス（法令の遵守)』のページを新たに作成するとともに、「室蘭工業大学におけるコンプライアンス教育・啓発活動の実施状況」を掲載し、コンプライアンスに係る教育及び啓発活動を学内外に公表した。<br>(イ) ガバナンスコードへの適合状況等を確認し、経営協議会及び役員会における審議の後、令和６年 10 月に公表した。<br><br>評価指標【11-１-①】<br>ガバナンスコードへの適合状況等の確認、監査結果等の反映、研修等の実施及びこれらの学内外への公表を継続的に行う | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | (ア)<br>(イ) | | | | |

**中期計画**

【11-２】大学の経営機能を強化するため、顧問制度等を活用し、学内外の専門的知見を有する者が参画した法人経営体制を整備・運用する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| (ア) 顧問が特定の分野に係る助言又は支援を行うことができるよう、国立大学法人室蘭工業大学顧問設置要項を改正し、令和 7 年度から入試広報に係る顧問を委嘱することとした。<br>(イ) 令和６年度から企画戦略会議において中長期的な課題、人事計画、予算等を検討することとし、７名の学長補佐を参画させた。<br><br>評価指標【11-２-①】<br>顧問制度等を活用した経営改善プランを策定し、当該プランに基づく法人経営を行う | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | (ア)<br>(イ) | | | | |

**中期目標**

【12】大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。㉒

**中期計画**

【12-１】施設 IR(Institutional Research)によるエビデンスをベースとした分析に基づき、教育研究に係る施設の有効活用を推進し、共創の拠点を整備する。また、低炭素社会の実現に向けて環境保全対策や省エネルギー対策等を実施する。

| 実績・進捗状況 | 自己 |
|---|---|

| | 評価 |
|---|---|
| （ア）低炭素社会の実現に向けた省エネルギー対策等として、IR データに基づいて夜間主授業暖房の範囲を 1 つの建物に集約化することを実施した結果、Ｎ棟系統ガス量を削減できたことにより 48.4t-CO2/年の CO2 排出量削減ができた。<br>（イ）北海道環境マネジメントシステムスタンダード（ＨＥＳ）ステップ２を維持する取り組みとして、令和 6 年 9 月に外部講師を招いて自己評価委員会養成研修会を実施したほか、自己評価委員会及び最高責任者（学長）による評価、緊急事態時訓練を行った。<br>（ウ）ＨＥＳステップ２については、規格に対する不適合はなく、認証・登録の継続に問題がないことを判定委員会に認証維持を推薦するという結果となった。<br><br>評価指標【12-１-①】<br>施設等の利用状況を把握・分析し、共創拠点となる施設・設備の割合を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させる<br>（単位：$m^2$）<br>令和４年度：254<br>令和５年度：327<br>令和６年度：327<br>令和７年度：<br>令和８年度：<br>令和９年度：<br>目標値：280<br><br>評価指標【12-１-②】<br>北海道環境マネジメントシステムスタンダード（ＨＥＳ）※4 ステップ２を維持する<br>令和４年度：<br>令和５年度：<br>令和６年度：（ア）（イ）（ウ）<br>令和７年度：<br>令和８年度：<br>令和９年度：<br>目標値：<br><br>※4 「北海道環境マネジメントシステムスタンダード（HES）」：組織の環境マネジメントシステムに関する国際規格である ISO14001 を基本とし、多くの組織が容易に取り組める環境マネジメントシステムとして、北海道商工会議所連合会が中心となり、経済団体、環境関係団体、行政機関（北海道・札幌市）の協力を得て構築した、環境保全活動と経営の安定を支援する環境規格。２段階で構成されており、ステップ１が環境問題に取組み始めた段階(PDCA を回す最小限の範囲で ISO14001 を基本に要求事項を簡素化したもの)であり，ステップ２は環境問題への高度な取組の段階(要求事項は ISO14001 とほぼ同様)と位置付けられている。 | Ⅲ |

**中期計画**

【12-２】地域の施設・設備の高度化の好循環を実現するため、地域、自治体、企業等が施設・設備等を有効活用できる体制を整備・運用するとともに、地域・大学の人的・物的資源の共有・融合による共同研究や委託研究等を充実させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）本学の研究成果の事業化支援や企業との共同研究を促進するために設置しているアライアンスラボについて、新たに１社が利用を開始した。<br><br>評価指標【12-２-①】<br>連携対象企業・自治体からの投資実績（共同研究、受託研究、学術指導）を第３期中期目標期間終了時比 10%増加させる（１-１-①再掲）<br>（単位：千円）<br>令和４年度：222,047<br>令和５年度：193,586<br>令和６年度：213,680<br>令和７年度：<br>令和８年度：<br>令和９年度：<br>目標値：135,061 | Ⅲ |

**中期目標**

【13】公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究成果の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。㉓

**中期計画**

【13-１】ビジョンや IR データ等と連動した中期財政計画（10 年）を新たに策定するとともに、中期財政計画に基づき、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策の実施と学長裁量経費などの重点投資を充実させる。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）令和６年８月に苫小牧信用金庫から講師を招き、資金運用に関する勉強会を実施し、本勉強会により得た知識等を元に資金運用に関する方針を新たに策定した。<br><br>評価指標【13-１-①】<br>令和４年度までに新たな中期財政計画（10 年）を策定し、財源の多元化及び財務基盤の安定化に資する施策並びに重点投資を特定し、計画的に実行する | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

**中期目標**

【14】外部の意見を取り入れつつ、客観的なデータに基づいて、自己点検・評価の結果を可視化するとともに、それを用いたエビデンスベースの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献等を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方向の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。㉔

**中期計画**

【14-１】エビデンスベースの法人経営を実現するために、学内情報資産の IT 化(デジタル化)を推進し、IR データの蓄積・分析プラットフォームを構築する。これらのデータと、外部有識者などの専門的知見を活用し、客観性と外部性を確保した自己点検・評価マネジメントを実施する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）関係各課と調整し、共同研究データ等の外部資金台帳様式の変更、データ処理フローを整理した。また、成績データ、出欠データ等の学生に関する IR データを用いて、休退学予兆が可能かデータの精査、データフロー確認、関係各課との調整を実施した。<br><br>評価指標【14-１-①】<br>IR データの蓄積・分析プラットフォームを構築し、エビデンスに基づく自己点検・評価を継続的に実施する | Ⅲ |

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

**中期計画**

【14-２】ステークホルダーの法人経営に対する理解・支持を獲得するために、多様なステークホルダーに対して、多様な広報媒体を活用し、積極的に情報発信を行うとともに、ステークホルダーとの意見交換の機会を設定する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）室蘭工業大学公式ウェブサイトの一部を AI 翻訳で英語化する仕組みを導入した。<br>（イ）令和６年 10 月に記者懇談会を実施し、５社（８名）が参加した。<br>（ウ）本学学生の保護者を対象とした地区別懇談会をオンラインと室蘭会場のハイブリッドで実施し、意見交換を行った。<br>（エ）令和６年９月にテーマを「地域における大学の役割」として、室蘭工業大学市民懇談会を開催した。<br><br>評価指標【14-２-①】 | Ⅲ |

多様な広報媒体を活用した積極的な情報発信

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （ア） | | | | |

評価指標【14-２-②】
相互理解を目的としたステークホルダーとの定期的な意見交換

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （イ）<br>（ウ）<br>（エ） | | | | |

## 中期目標

【15】AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。㉕

## 中期計画

【15-１】第３期中期目標期間にデジタル技術を活用した業務の効率化として導入したRPAを発展させ、更なる業務の効率化及びデータ分析に基づく業務運営体制の強化を目指した、迅速かつ柔軟性のあるデジタル・キャンパスを推進する。そのために、セキュアな情報基盤を整備し、デジタル・キャンパスを推進する組織を設置・運用する。

| 実績・進捗状況 | 自己評価 |
|---|---|
| （ア）業務効率化の事例を共有するイベント「GOOD ACTIONシェアリング」を12月に実施した。<br>（イ）オープンキャンパスの受付をアプリ導入により省力化した。<br>（ウ）電子決裁システムの導入を完了した。令和７年度以降、試行を経て本稼働予定となっている。<br>（エ）Microsoft 365 Copilotを一部導入し、実証プロジェクトを開始した。<br>（オ）Microsoft Power Automateハンズオンセミナー、Microsoft365 Copilot（生成AI）研修及びミニセミナー、Box活用セミナー、Box Driveセキュリティ研修、本学OBによる生成AI未来セミナーを実施した。<br>（カ）令和７年３月にISMS/BCMSのサーベィランス審査を受審した結果、不適合項目はなかった。 | Ⅳ |

評価指標【15-１-①】
チャットボットをはじめとした業務効率化関連事業数を新たに３件以上導入する

（単位：件）

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 5 | 5 | | | | ３以上 |

評価指標【15-１-②】
セキュアな情報基盤を維持する

| 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | （カ） | | | | |